

高齢者リハビリテーション研究会(第4回)議事次第

平成15年10月29日(水)

14:00～16:30

於:東条インペリアルパレス
吹上の間

1. 開 会

2. 資料確認及び説明

3. 議 題

1) 論点整理

2) その他

高齢者リハビリテーション研究会

1 研究会の設置

老健局内に研究会を設置し、今後の高齢者のリハビリテーションの在り方について精査・研究する。

2 検討事項

- ① 要介護状態にならないようにする予防的リハビリテーション
- ② 介護が必要となってもできるだけ重度にならないような、各ステージ毎のリハビリテーションの提供体制
- ③ 福祉用具・住宅改修の提供体制
- ④ 利用者のニーズに応じた多様なリハビリテーション提供体制
- ⑤ 地域リハビリテーション提供システム

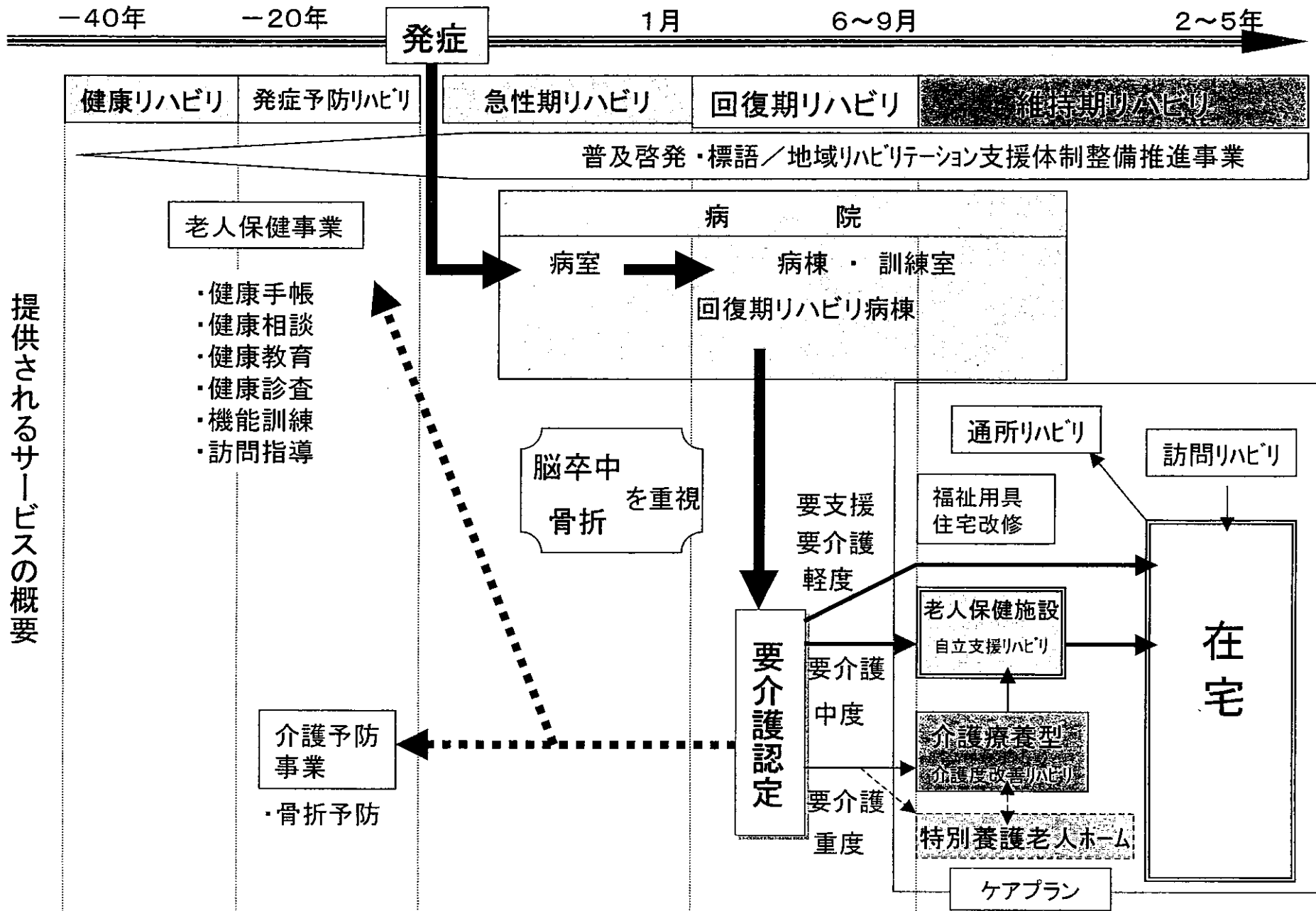
3 研究会の位置付け等

老健局長の私的研究会（老人保健課が庶務を実施）
公開

4 検討日程

7月10日に第1回研究会を開催し、年内に中間報告書を取りまとめる。

高齢者リハビリテーションの現状



今後のスケジュール

- 7月10日 第1回研究会
- 高齢者リハビリテーションの現状と課題について
- 8月21日 第2回研究会
- ① 要介護状態にならないようにする予防的リハビリテーションについて
 - ② 各ステージ毎のリハビリテーション提供体制について
 - ⑤ 地域リハビリテーション提供システムについて
- 9月18日 第3回研究会
- ③ 福祉用具・住宅改修の提供体制について
 - ④ 利用者のニーズに応じた多様なリハビリテーション提供体制について
- 10月29日 第4回研究会
- 論点整理
- 11月17日 第5回研究会
- ヒアリング及び事務局第1案討議
- 12月 8日 第6回研究会
- 事務局第2案討議
- 12月15日 第7回研究会
- 中間報告書まとめ

論点整理(案)

第1 総論

1 課題

- (1) 利用者の状態像とサービスのミスマッチ
- (2) 予防・医療・介護サービスの連携が不十分

2 今後の対応

- (1) 個々の利用者の生活機能の向上に向けた効果的な介護予防・リハビリテーションの推進
- (2) 利用者本人を中心とした予防・医療・介護の切れ目のない総合的なサービス提供の推進

第2 各論

1 啓発普及

(1) 課題

- 介護予防・リハビリテーションに関する国民の理解不足

(2) 今後の対応

- 高齢者の選択、自己決定が可能となる啓発普及の推進
 - ア 国民向け
 - イ 医療・介護の関係者向け

2 対象

(1) 課題

- 利用者の状態像が不明確

(2) 今後の対応

○ 状態像のしぼり込み

(ア) 急性に発症するもの

- ・脳卒中、骨折など

(イ) 慢性に進行するもの

- ・変形性関節症、廃用症候群など

3 サービス

(1) 予防

ア 老人保健事業

(ア) 課題

- ・加齢に伴い慢性に進行するものへの取組が不十分

(イ) 今後の対応

- ・慢性の進行を予防するための取組の推進

イ 介護予防事業

(ア) 課題

- ・要介護状態となることの予防、要介護状態の軽減の効果の検証

(イ) 今後の対応

- ・効果的な取組の推進

ウ 予防給付

(ア) 課題

- ・要介護状態となることの予防の効果不十分

(イ) 今後の対応

- ・要介護状態となることを予防する取組に特化

(2) 医療

ア 課題

(ア) 原疾患の治療優先、後追いのリハビリテーション

(イ) 在宅生活を想定した取組が不十分

イ 今後の対応

(ア) 原疾患の治療と並行したリハビリテーションの推進

(イ) 在宅復帰を目指した取組の推進

(3) 介護

ア 課題

(ア) 要介護度改善に向けた取組が不十分

(イ) 在宅生活を支援する取組が不十分

イ 今後の対応

(ア) リハビリテーション前置の徹底

(イ) 在宅での生活を継続させる一体的な取組の推進

①訪問リハビリテーション

- ・退院（所）後早期の集中的な取組

②通所リハビリテーション

- ・レスパイト機能とリハビリテーション機能の明確化

③老人保健施設

- ・在宅復帰・在宅支援機能の充実強化

(4) 環境

ア 課題

(ア) 画一的な施設・設備

(イ) 福祉用具・住宅改修は、自立支援、介護負担の軽減に効果不十分

イ 今後の対応

(ア) 個々の利用者の状態像・サービス内容に適切に対応できる施設・設備整備の推進

(イ) 福祉用具・住宅改修の導入プロセスにおける専門職の関与の推進
・評価、訓練、指導など

4 その他

ア 人材育成

イ 地域におけるシステムづくり

ウ 調査研究

エ その他